



教会短信

2012年4月1日

No. 44

牧師 間瀬 善彦

「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、あの方は、ここにはおられない。……、復活なさったのだ」(マタイ 28:5-6)。

今年のイースター(復活祭)は、4月8日(日)です。キリスト教と言うと、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスがおなじみですが、もっと大事な日があります。それはイースターです。キリストが人類の罪を背負って十字架につけてくださり、神の力によって死からよみがえらされた日です。キリスト教会は、キリストが神によってよみがえらされた日(現在の暦の日曜日)を喜びの日として、教会に集まり毎週神に礼拝をささげているのです。

イースターは「移動祝日」で、年毎に日が変わります。基本的には、イースターは春分の日の後の最初の満月の次に来る日曜日ということになります。満月が日曜日になったら、次の日曜日に復活祭を守ります。

人がよみがえる、と聞くと信じられないと思われるかもしれません。人にはできないことを神はおできになるのです。イエスの12人の弟子たちも最初は信じるできませんでした。イエスはその頃の指導者と民衆たちによって十字架につけられたとき、ほとんどの弟子たちは逃げ去ってしまいました。しかし、復活されたイエスは、弟子たちの前にその御姿を現わされたのです。

イエスは復活されて、今も生きて働いてくださっています。それもわたしたち1人1人が救われるように(幸せになるように)、神とわたしたちの間に立って執り成してくださっています。イエスという、執り成してくださるお方がいなかったとしたら、わたしたちは自分自身の罪のために、今日1日たりとも生きていることは許されないでしょう。それほどに、わたしたちすべての人は神の前に重大な罪を持っているのです。それゆえに、イエス・キリストのご復活は、わたしたちに希望を与えてくれます。わたしたちは自らの罪の存在を素直に認め、悔い改め、新しく歩み出そうとすることが必要です。

わたしも教会に行ったらばかりの最初、イエス・キリストの復活が信じられませんでした。しかし、今はイエスのご復活を信じています。イエスが復活されたからこそ、わたしの祈りに答え、日々困難に直面しても助けていただけるのだと信じています。

「マザー・テレサの祈り」より

イエスよ、私をお救いください

愛されたいという欲望から ほめられたいという欲望から
名誉を得たいという欲望から 称賛されたいという欲望から
人よりも好かれたいという欲望から 相談されたいという欲望から
よく思われたいという欲望から 人気を得たいという欲望から
屈辱を受けるといふ恐れから 軽蔑されるという恐れから
非難されるという恐れから 中傷されるという恐れから
忘れ去られるという恐れから ひどい扱いを受けるといふ恐れから
嘲笑されるという恐れから 疑われるという恐れから

(マザー・テレサ)

クリスチャンにとって祈りは、神との一対一の対話で行われる、信仰行為だ。だから、祈りが上手か下手か、好きか嫌いかなど、他人が批評するものではない。上記の「マザー・テレサの祈り」は、決して力強い祈りではないが、私はこの祈りが好きだ。

冷静に自分の心の悩みに目を向けると、弱い自分のための祈りだから、自分のために祈って良いのだと気づかせてくれる。

「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」(マタイによる福音書6章8節)。

神は必要なものは知っておられるから、「クリスチャンは自分のために祈る必要はない」「何かを成し遂げるために祈る必要はない」と考えてきた。家族や周囲、世界の人々のため、神のために祈り行動すべきであって、自分のことは既に誰かが祈ってくれていると思っていた。

しかしその考えは、自分のために祈るべきではないと、姿を変えていた。それは突き詰めると自分のために祈られることをも拒絶し、祈りを形骸化しかねない。すると自分の悩みは全て自力で対処することになる。対処しきれないものが存在してはならない。

だが自分のために祈っても良いのである。いや、むしろ祈った方が良い。弱さがあるのだから。そう思えるようになれば、祈りは単なる言葉ではない、神との対話という信仰行為となり、それだけで悩みを取り払う力を与えてくれる。

そのことを気づかされた上で、もう一度さきほどの聖書の一節を読み返した。

Y. N

聖書の言葉で磨かれた人たち

田中 正造

財産を投げ打ち、弱い民衆の代弁者に

公害問題の原点といわれる足尾鋳毒事件。その窮状を訴えた人物として有名な田中正造は、まさに無私の人でした。江戸時代末期、名主の家に生まれた彼は、領主に抗議して投獄されることもありましたが、この頃から正義に対する一途さの片鱗をみせていたのです。

その後、初めて開かれた帝国議会の衆議院議員となり、足尾鋳山から流れ出た鋳毒で故郷栃木の水田が被害を受けると、激しく国の施策を批判します。その後、議員を辞め、明治天皇に直訴を試みて失敗しますが、結果的に大きな反響を呼び、国も本格的な鋳毒被害の対策に乗り出します。

田中は洗礼を受けませんでした。残された日記や手紙に「予はキリストを信ず」と記していました。演説でも聖書を引用し、人生の支えとしていたことがうかがえます。

晩年になっても、国の抑圧に苦しむ民衆の側に立った戦いを続け、演説先で倒れてなくなりません。長い抗議運動で資産を使い果たし、全財産の入った袋の中身は、新約聖書と憲法の本、海苔と小石だったと言います。彼の葬儀には、交通機関の発達していなかった時代にあっては異例の三万人以上が集まり、彼が、現代よりはるかに立場の弱かった民衆の代弁者だったことを証する機会となりました。

参考資料・南敏雄『田中正造の思想』（近代文芸社）

（『聖書の品格』いのちのことば社より引用）

教会バザー



2012年4月22日（日） 午後12時30分～14時30分

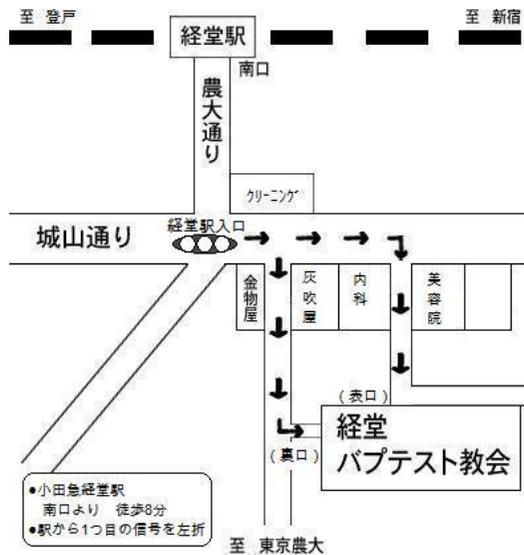
いろいろと準備いたしております。どうぞいらしてください。

※困ったことや悩み事がある方は、いつでも教会へ相談にいらしてください。

事前にお電話いただければ幸いです。

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～ 2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～ 8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。

エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。